

令和 2 年度目標設定シート

上下水道部

部目標	<input type="radio"/> 上水道事業 市民の衛生的かつ快適なくらしを支えるため、安心して飲める水を将来にわたって途切れなく送りつづける。 <input type="radio"/> 下水道事業 公共下水道や農業集落排水施設の整備により市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全を図る。
-----	--

課	目標
経営管理室	<input type="radio"/> 上水道事業 市民の衛生的かつ快適なくらしを支えるため、安心して飲める水を将来にわたって途切れなく送りつづける。 <input type="radio"/> 下水道事業 公共下水道や農業集落排水施設の整備により市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全を図る。
上水道課	<input type="radio"/> 上水道事業 市民の衛生的かつ快適なくらしを支えるため、安心して飲める水を将来にわたって途切れなく送りつづける。
上水道課薪 浄水場	<input type="radio"/> 上水道事業 市民の衛生的かつ快適なくらしを支えるため、安心して飲める水を将来にわたって途切れなく送りつづける。
下水道課	<input type="radio"/> 下水道事業 公共下水道や農業集落排水施設の整備により市民の生活環境の向上と公共用水域の水質保全を図る。

課名	事業名	事業概要	今年度の目標	指標	指標設定の考え方			
					単位	目標値	達成率	
上水道課	老朽水管更新事業	水道管の老朽化更新に合わせた耐震性の強化により、地震時の応急復旧期間を短縮するため、基幹管路(導水管、送水管、配水管)を中心に更新などを推進	管路の耐震化率の向上のため、布設替え工事等により令和5年度末の基幹管路の耐震化率を58.4%を目指す。宮ノ口受水場送水管布設工事を第2四半期の発注に向け事務を進める。	基幹管路の耐震化率	%	43.7	0%	水道ビジョンの計画目標の到達を目指す
上水道課（薪净水場）	水道施設維持管理事業	水道施設の耐震化を進め、災害時でも安定して給水できる強い水道を構築。ポンプや電気設備の更新時における省エネルギー、高効率機器の導入を推進	災害時においても安定供給できる強靭な水道施設構築のため、設計・調査を行い施設改修率等の向上を目指す。詳細設計を第2四半期の発注に向け事務を進める。	診断調査が完了した水道配水池数(全11施設)	施設	8	0%	水道ビジョンに基づき、R5の調査完了を目指し、毎年1施設の調査を実施
				配水池耐震施設率	%	53.4	0%	調査結果に基づき耐震性能を有する施設改修率向上を目指す
上水道課（薪净水場）	上水道安定供給事業	水源計画の見直し。身近で比較的良質な水源である自己水源について、平常時だけでなく非常時を含めた供給安定性を考え、定期的に改修を実施	良質な水源である自己水源の維持・揚水量の確保を行い、平常時及び非常時も含め安定供給が行える水源運用を図る。取水井掘替工事は、第2四半期契約に向け発注事務を進める。	水源余裕率	%	15.3	0%	水道ビジョンに基づき平常・非常時も含め継続的に供給が行えるよう適正な揚水量確保を目指す
下水道課	公共下水道整備事業	排水区域の拡大などを含め下水道の事業計画に基づく整備の計画的実施	公共下水道の持続的な維持に向けた施設等の管理	施設の点検回数(年)	回	12	0%	ポンプ施設及び農集の処理場の点検を月1回実施する
下水道課	下水道施設長寿命化事業	下水道施設の老朽化対策を進め、施設の長寿命化を図るとともに、耐震性を強化	公共下水道管路施設長寿命化計画に基づき、予防保全事業を行う。	長寿命化率	%	2.8	0%	長寿命化計画及びストックマネジメント計画に基づき事業を進める
経営管理室	料金収納率向上事業	口座振替の推進、効率的な未納料金の回収による収納率向上	目的：上下水道料金負担の公平性確保のため、効率的な手法による収納率向上を図り、市民により良いサービスを提供する。 活動：口座振替の推進及び滞納整理の強化を行う。	口座振替収納率	%	99.6	0%	主に新規給水申込者を対象に口座振替収納率の向上を目指し、現状の水準を維持する
				口座払い率	%	84	0%	主に新規給水申込者を対象に口座払い率(口座振替利用者の割合)の向上を目指し、現状の水準を維持する
経営管理室	下水道使用料適正化事業	料金算定期間を4年間とし、収支均衡を図り、下水道使用料を適正化	令和2年4月に策定した下水道ビジョン及び水道・下水道事業経営戦略に基づき、下水道使用料の適正化などによって、経営の健全化を図り、持続可能な上下水道経営を進めます。	経費回収率(公共下水道事業)	%	70	0%	R3に向けて、使用料改定を行い、経費回収率100%を目指す(R2の目標は、前年度実績と同水準)